

浦添市地域公共交通会議
第2回委員会議事要旨

資料1

日時：平成30年12月5日（水）
14：30～16：30
場所：浦添市役所 9階 講堂

■議案①：支線公共交通運行ルート一部変更について（資料3）

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
浦添市副市長 野口会長	<p>① ルート2が変更となる場合、需要予測にも影響があるのか。</p> <p>② 議案①の「支線公共交通運行ルート一部変更について」は承認してよいか。</p>	<p>（事務局）</p> <p>① 変更ルートでは、変更前よりルート沿線の範囲も広がるため、需要予測値は増加することになる。</p> <p>（各委員）</p> <p>② 異議なし。</p>

■議案②：支線公共交通バス停設置位置について（資料4）

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
沖縄バス 大城委員	<p>① 既存バス停使用に関して、一つのバス停を複数事業者で共同利用している場合、台風等でバス停の修繕等が必要となる時は共同利用者のバス運行回数で按分して費用を負担している。その場合、浦添市でも費用負担は可能であるか。</p>	<p>（事務局）</p> <p>① 内容を精査した上で調整させて頂きたい。</p>

<p>沖縄県土木建築部 中部土木事務所 真栄里委員</p>	<p>① バスルートの沿線にコンビニがどれくらいあるのかピックアップし、バス停として利用の可能性を検討して次回報告してほしい。コンビニ利用のメリットとして、雨風を凌いで待合できることや、駐輪場の設置を依頼してバスと自転車の乗換え等の可能性もあると考えられる。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 今回の素案検討にあたり、交差点付近に位置している等、道路状況によりコンビニ付近をはずしてバス停を設定している箇所もあるが、コンビニの駐車場へバスが入ることが可能か等、地元をまわる時に調整を実施できればと考えている。また、コンビニ問わずバスルート沿線の商店等を視野に入れ、バス停設置の検討結果を可視化して示すようにしたい。</p>
---------------------------------------	---	--

<p>琉球大学 工学部 神谷委員</p>	<p>① 高齢者をバス利用者としてターゲットに入れるのであれば、待合環境の他、公民館等でのサークル活動がいつ、どこで行われているのかということ視野に入れておく必要がある。また、お年寄りをターゲットにしたバス停の設定にあたっては、バスへ乗る時の段差や待合環境を考慮した方がよいと考えられる。</p> <p>② 高等学校等の通学時のバス利用の想定に関して、現状として通学において送迎やバス利用の割合等はどうなっているか等、通学の実態を把握する必要がある。</p> <p>③ 特別支援学校の生徒へバスを使ってもらえる場合には、障がいのある生徒がバスを利用するにあたり、生徒へバスの使い方の教育や乗務員へサポート方法の教育を実施する等、学校との連携が必要となる。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 公民館だけではなく、市内で高齢者が使用できそうな場所に関しては、利用者へヒアリングを実施し、コミュニティバスの運行する時間帯に合わせてサークル活動の時間を調整する等の提言も受けている。今後、各施設と相談して検討を進めたい。</p> <p>② 市内の高等学校6校において、バスのみで通学している生徒の割合は2割程度となる。なお、昭和薬科付属は自前のスクールバスを運行しているが、全生徒をカバーすることは困難である(生徒の9割程度が自家用車による送迎を利用して通学したことがある)。また、浦添商業高等学校でヒアリングを実施した結果、中学生が高等学校へ進学時に、通学に利用できる公共交通があるかどうかが進路決定のポイントとなるという意見があった。そのため、コミュニティバスでの通学が可能となることのメリットを今後の学校との調整においても丁寧に説明して行きたい。</p> <p>③ 特別支援学校に対しては、まだヒアリング等を実施できていないため、コミュニティバスが通ることを説明し、丁寧に対応して行きたいと考えている。</p>
------------------------------	---	---

	<p>④ バス停間隔に関して、400m 以内であれば半径 200m で徒歩圏をカバーできるため問題ないといえる。</p> <p>⑤ 資料 3 の変更ルート案において、ルートの変更に伴い公共交通空白地域のカバー率が上昇すると説明があったが、変更するルート上で新たにバス停を設定するのであればカバー率は上昇する。なお、空白地域のカバー率の算出では、バス停からのカバー率を算出しているが、潜在需要を求めるにあたっては、バスの走行ルートから 200m 沿線の範囲をとっている。そのため、既存バス停の利用者も潜在需要に含まれている。その点を考慮すると、試算値は減少するはずであるため、もう一度整理して頂ければと思う。</p> <p>⑥ 空白地域カバー率や利用圏という言葉の使い方を分けることで、整理は可能であると思う。</p>	<p>⑤ 潜在需要の算出にあたっては、平成 29 年度の算出方法を踏襲している。コミュニティバスの利用者と既存のバス利用者の需要がダブルカウントされる点は確かに課題となる。しかし、今回はコミュニティバス沿線内のみにおけるトリップが母数となっているため、既存バス停利用者の需要がそのまま抜けるという可能性は低いと考えられる。なお、需要予測値は来年度 1 年間の実証実験の実施を見据えた上での目標設定値と、実際に事業を行うにあたっての予測人数という二つの柱が必要であると考えており、今回の数値は目標値としての設定を想定している。また、需要予測値をより精査できる方法を今後も考えていきたい。</p>
--	--	--

<p>一般社団法人 沖縄県バス協会 慶田委員</p>	<p>① ルート1の合同庁舎前バス停に関して、第1回目の会議において右折帯への移行に課題があがっていたことから、バスが安全にスムーズな運行を行うためには合同庁舎前バス停は利用しないことを検討して頂きたい。県立博物館前のバス停で対応することが可能ではないか。</p> <p>② バス停の設置に関して、既存のバス停は車道と平行に設置することで道路占用許可を受けている。しかし、利用者の利便性を考慮すると、バス停を車道と直角に設置し、片面は時刻表、もう片面は路線図を拡大して表示するといった方法がよいのではないかと思われる。道路管理者との調整で車道と直角にバス停設置が可能であると考えられる。</p> <p>③ 資料3のルート変更に関連して、バス停の素案にはルート変更が反映されていないのか。また、ルート変更を行う際には浦添美術館前のバス停は使用しないのか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 合同庁舎前のバス停は、既存バス停もあるため候補としてあげているが、バス停設置位置を見える化することで、今回ご提案頂いたように前後のバス停での対応等が検討できると考えている。なお、本提案に関しては、合同庁舎前バス停の利用率の確認やバス事業者との調整の上、検討を進めて行きたい。</p> <p>② ご提案のとおり、バス停の表示の見やすさ等、お年寄りがわかりやすい地図の内容等について道路管理者を含めて前向きに検討して行きたい。</p> <p>③ 本会議におけるバス停素案には、ルート変更を反映してバス停の設定は実施していない。なお、本会議においてルート変更が承認された後、バス停の設置場所として美術館前のバス停を使用させて頂きたいと考えている。</p>
<p>沖縄総合事務局 南部国道事務所 山城委員</p>	<p>① バス停に限らずルート上に狭隘箇所が数箇所あるが、通学路や歩行者が多い場合、簡易的な歩道確保又はポストコーンの設置、歩道のカラーリング等、対応方法をどのように考えているのか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 道路管理者と調整の上、現場状況に即して安全を確保できる方法を検討して行きたいと考えている。</p>

<p>浦添市社会福祉 協議会 池原委員</p>	<p>① ルート変更案に関して、てだこホールでのイベント時は、ルート1で走行するルート（図書館から市役所方面へ向かうにあたり、あかひらすテーションビル前の交差点を左折する）で渋滞することが多い。そのため、ルート1もルート2と同様にルート変更した方が良いのではないかと思う。また、変更することによりバス停もルート2と共通の1箇所に対応可能となるのではないか。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 本提案に関しても、今後検討させて頂きたい。</p>
<p>浦添市副市長 野口会長</p>	<p>① 議案②の「支線公共交通バス停設置位置について」は、修正可能な箇所及び調査が必要な箇所は作業を進めながら検討して頂きたい。なお、本議案に関しては概ね了解として承認してよいか。</p>	<p>(各委員)</p> <p>① 異議なし。</p>

■議案③：支線公共交通ダイヤ設定について（資料5）

<p>発言者</p>	<p>主な指摘・意見</p>	<p>回答・対策方針など</p>
<p>浦添市副市長 野口会長</p>	<p>① 議案③の「支線公共交通ダイヤ設定について」は、説明内容のとおり承認してよいか。</p>	<p>(各委員)</p> <p>② 異議なし。</p>